地域医療支援病院　臨床研修指定病院　救急指定病院
地域がん診療連携拠点病院　日本医療機能評価機構認定病院
社会福祉法人　京都社会事業財団
京都桂病院

新春号

かつら
katsura
http://www.katsura.com

基本理念

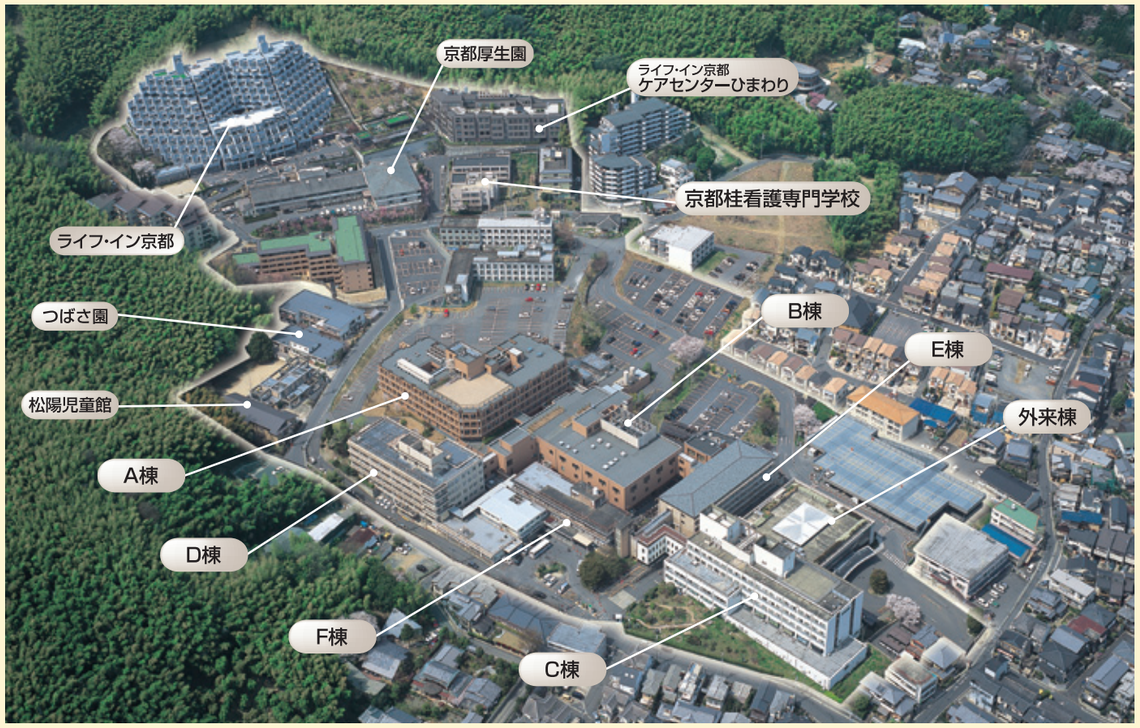
私たちは、患者さんの人権を尊重し、地域に必要な基幹的中心的な医療を担当すると共に、さらに高次の医療に対応できるよう努力します。

2016 New Year Vol.044
編集：広報委員会・広報課
印刷：有限会社 アクト
〒615-8256 京都市西京区山田平尾町17
TEL.075-391-5811㈹

洛西　竹の径（撮影 桐山豊三郎）

Index

2 …… 専門医がお答えします ―第40回
生涯スキーで傷害予防
3 …… 知っトク情報コーナー
今年の花粉症対策について
4 …… シリーズ チーム医療 ⑥
当院の腎臓ケアチームの活動
6 …… ナースの広場
顔の見える連携を求めて
6 …… 連携医ネットワーク
7 …… 当院の医師・職員紹介



許可病床数

●585床（一般525床：結核60床）

診療科目

●一般内科 ●血液内科 ●脳神経内科 ●内分泌・糖尿内科
●腎臓内科 ●膠原病・リウマチ科 ●化学療法内科
●心臓血管センター（心臓血管内科・心臓血管外科）
●消化器センター（消化器内科・外科）●乳腺科
●呼吸器センター（呼吸器内科・呼吸器外科）
●整形外科 ●形成外科 ●泌尿器科 ●産婦人科 ●眼科
●耳鼻咽喉科 ●脳神経外科 ●皮膚科 ●小児科
●緩和ケア科 ●精神科 ●リハビリテーション科
●ペインクリニック科 ●放射線科 ●麻酔科 ●救急科
●透析センター ●健康管理センター

●京都桂臨床医学研究所（臨床試験センター）●保育所

併設施設

●京都桂看護専門学校（全日制3年課程）
●訪問看護ステーション「桂」

関連施設

●西陣病院 ●にしがも透析クリニック
●京都厚生園 ●京都桂川園 ●にしがも舟山庵
●北野保育園 ●二条保育園 ●昭和保育園
●つばさ園 ●松陽児童館 ●ライフ・イン京都

交通のご案内

市バス

73系統（京都駅～洛西バスターミナル）
29系統（四条烏丸～洛西バスターミナル）
69系統（二条駅西口～阪急桂駅東口）
それぞれ「千代原口」下車、徒歩約10分

京阪京都交通バス

21、27系統（京都駅～桂坂中央）
「千代原口」下車、徒歩約10分

阪急電鉄

京都線「桂駅」下車
（西口）西へ約1.7km

病院専用送迎バス（約15分）

「阪急桂駅」及び「JR桂川駅」からは送迎バスを無料でご利用いただけます。

◀JR桂川駅送迎バスのりば
（阪急桂駅西口の送迎バスのりばは、上記地図を参照してください。）

社会福祉法人　京都社会事業財団
京都桂病院
http://www.katsura.com
〒615-8256　京都市西京区山田平尾町１７番地　TEL 075-391-5811㈹

専門医がお答えします 第40回

生涯スキーで傷害予防

整形外科
部長
藤田　裕

はじめに

スキーが日本に伝わったのは約100年前です。オーストリアのレルヒ少佐が新潟県高田に赴任して冬の戦闘訓練の1つとして導入しました。ブームに火が付いたのは1990年、映画『私をスキーに連れてって』のヒットによってです。

▲コブ斜面を滑走する私

スキーの魅力

スキーの魅力は自分だけの力では味わえないスピード感と重力を、老若男女を問わず誰でも味わえることです。さらに山奥深くまで歩かずに、リフトやゴンドラで運んでくれるので、容易に厳冬の高山に到達できます。さらにアフタースキーでは地元の美味しい酒と料理をゆっくり味わえます。下手でも充分楽しいですが、上達するとさらに面白くなります。

私とスキー

私がスキーの魅力に取りつかれたのは24年前の28歳の頃でした。その後6年努力し、18年前に1級を取得しました。どんな斜面でも上手く降りられるレベルです。その頃、縁あって滋賀県スキー連盟安全対策部のドクターパトロールになりました。安全対策部はスキーヤーがより安全にスキーを楽しめるように対策を立てる部門です。7年前より滋賀県の5スキー場の傷害調査を集計し、分析記事を滋賀県スキー連盟の会報に毎年報告してきました。2月の1か月間に約18万人が来場していて、その内怪我のため救護室を訪れたのは約180人で、1万人あたり10人でした。また、スノーボーダーはスキーヤーの2.5倍多く怪我をしていました。滋賀県スキー連盟の50歳以上の指導員を対象にした調査では、一般の中高年者に比べて平衡機能、骨密度とも高い数値を示していました。これは、長年スキーを続けていると転倒しにくく、転倒しても骨折しにくいことを意味しています。生涯スキーを続けることにより、骨折による手術や寝たきりになるのを防ぐことができます。

はじめてみませんか?

最近は用具も進化し、定年後にスキーを始めても数年で上達することができます。

昔していた人は『久しぶりに』、したことがない人は『思い切って』、スキーをしませんか?

ドクタープロフィール
藤田（ふじた）　裕（ひろし）
●京都桂病院　整形外科部長
　人工関節研究センター長　兼務
●滋賀県スキー連盟安全対策部ドクター委員長
●桂リホルトスキークラブ代表

知っトク情報コーナー

このコーナーでは、日頃皆さんが気にしておられる話題に、当院のスタッフが情報提供を行います。

今年の花粉症対策について

耳鼻咽喉科　部長　村井紀彦

冬になると花粉症の心配をされる方がおられると思います。花粉症は鼻の穴に入ったり、目に付着したりするなどした花粉に対する、体の異常な免疫反応（アレルギー）です。冬季から春先にかけて飛散するスギやヒノキの花粉に対する花粉症の主な症状はくしゃみ、鼻水、鼻づまり、流涙、鼻や目の痒みなどです。2008年のある調査では、調査対象者の約25%がスギ花粉症を持っていたそうで、国民病と言って過言ではありません（※1）。2016年の予測されるスギ花粉飛散開始時期は2月中旬で、予測飛散数は例年よりは少ないとされていますが（※2）、前年の2015年と比較してどうであるかは、測定地域などによって差があり一概に言えないかもしれません。

症状を軽くするための第一歩は、花粉を体にできるだけ寄せ付けないためのセルフケアです。近年はインターネットやマスメディアなどを通じて、公的機関などの信頼できる情報源から花粉の飛散状況の短期的な予測を、以前より容易に知ることができるようになっています。花粉の飛散が多いと予報されている日、時間帯には外出を避けたり減らしたりし、屋内でも窓の開け閉めに気をつかいます。外出の際には花粉症用のマスクやめがねを利用します。浴びる花粉の量は、しかるべきマスクの適切な使用で約6分の1に、通常のめがねでも半分以下に減らすことができるとされます（※3）。外出の際の服装については、毛羽立った生地のものより、つるつるしたものの方が花粉が付着しにくいということに留意します。外出時に衣類に付着した花粉は、玄関を入る前に払いのけ、室内に持ち込まないよう努めます。外に干した洗濯物や布団についても同様です。それでも室内に入りこんだ花粉をこまめな掃除によって減らすようにします。

それでも症状が苦痛であるという場合は、症状を抑える薬などによる治療について、まずかかりつけ医の先生、お近くでご開業の医院・診療所・クリニックを受診してご相談下さい。

◆　◆　◆

（※1）環境省「花粉症環境保健マニュアル」2014年改訂版
（※2）日本気象協会ウェブサイト（http://weathernews.com）
（※3）厚労省「的確な花粉症の治療のために」2015年 第二版

初診時取扱い料金について

当院では、厚生労働省の推進する医療機関の機能分担を進めるため、初期の診療はお近くの医院・診療所にお願いしております。当院に受診される際には、まずお近くの医院・診療所におかかりのうえ、紹介状をお持ちいただくことをお勧め致します。紹介状をお持ちでない方は、初診時に原則として“初診に係る選定療養費”（税込み5,400円）をお支払いいただいています。

京都桂病院 座談会

シリーズチーム医療 ⑥

当院の腎臓ケアチームの活動

腎臓内科 部長 宮田仁美

おめでとうございます。皆様の2016年の幕開けはいかがでしたでしょうか？ 今回は、昨年後半に院内で立ち上げました腎臓ケアチーム（Team Kidney＜チームキドニー＞）、及び地域の先生方との連携についてお話させていただきます。

腎臓は、「**沈黙の臓器**」と呼ばれ機能が少しくらい落ちても症状が現れません。

知らないうちに腎機能が低下していくことが多く、透析療法しか治療法がないことをご説明させていただくことがあります。患者さんの中には、晴天の霹靂といったように受け入れがたいこととして、とても苦しまれる方もおられます。このような出来事が起こらぬように、慢性腎臓病とは何か?、また腎臓病の進行をどのようにすれば抑制できるのか?などの疑問について知っていただきたいと思います。

腎機能の悪化した状態を**慢性腎臓病**（Chronic Kidney Disease の頭文字をとってCKDと呼びます）といいます。これは2000年代に米国から持ってこられた概念で、血清クレアチニン値、年齢、性別から導かれる推定糸球体ろ過量（eGFR）と蛋白尿で重症度分類されています。日本におけるCKD人口は1300万にのぼるといわれており8人に1人が罹患していることになります。その原因は、糖尿病及び高血圧や動脈硬化による腎硬化症が大半です。糖尿病罹患は成人の5人に1人、高血圧罹患は3人に1人と言われていますから、いかにCKD予備軍が多いかということが、想像に難くないと思います。糖尿病、高血圧と合わせて国民病といわれる所以です。腎機能が悪いとすぐ透析だ～と思われる方が多いかもしれませんが、慢性腎臓病CKDの行く末は透析だけというのではないのです。CKDの患者さんでは、透析導入する前に心筋梗塞や脳卒中などの心血管イベントが発症する危険度が、透析導入するよりも3倍程度高くなるということが調査でわかりました。すなわち、CKD＝透析という図式ではなく、**CKD＝心血管イベント**ということを記憶しておかなければならず、早期にCKDを発見し、早期にその進展を予防するということが非常に重要であることが理解できると思います。しかしながら、CKDは症状がないので、CKD進展の予防を強化することに抵抗を示す患者さんが多いともいわれています。

糖尿病、高血圧、脂質異常症、高尿酸血症、肥満症など生活習慣病を基礎疾患とするCKDの進展に対しては、**患者自身のセルフケア行動**がカギを握ります。しかしながら、セルフケア行動に関する知識、改善行動は多岐にわたり複雑・難解なのです。そこで、医師のみならず、管理栄養士、看護師、薬剤師、検査技師、理学療法士などの多職種による介入が必要と考えています。当院では多職種連携が培われてきた歴史がありますので、今回、多職種連携によりこのCKDに立ち向かうためTeam Kidneyが結成されました。Team Kidneyは、5つの柱を軸として活動しています。最大の目的はCKDの進行を抑制し慢性維持透析患者ならびに透析導入よりも前に発症する心血管イベントの減少です。チームは、それぞれの柱にそれぞれの多職種のエキスパートで構成しています。

1. **教育入院**
2. **集団指導**
3. **protein energy wasting（PEW）対策**
4. **地域連携**
5. **チーム医療**

昨年後半に立ち上がったばかりのTeam Kidneyでの最初の取り組みとして、**教育入院の導入**があります。まず11月に、教育入院モデル施設になっている近江八幡市民病院にスタッフで見学させていただき、患者さんへの教育現場を視察し、当院でも今後実施する予定です。CKD患者さんは、味覚障害も見られるという報告があり、教育入院1週間では、味覚障害の確認や慢性腎臓病食を摂取していただいているなかで改善してくる様子も体験できると思います。1週間の入院が難しいという方であれば、味覚障害の改善まで行かなくても、週末を利用して蓄尿検査などで現状を把握し、栄養指導などの今後の対策を練るために、金曜日入院月曜日退院で週末指導をうけられるようにしたいと考えています。また、CKD患者さんには一般の加齢的変化以上に栄養障害、筋力低下がみられています。これらの身体的な障害にも総合的な診療形態の構築が必須と考えています。

12月には、一般のみなさまを対象に、Team Kidneyで**腎臓病教室を開催**いたしました。「腎臓が悪いと言われたら」というタイトルでしたが、看護師による血圧の測り方、栄養士によるクイズ形式の制限食の摂り方、理学療法士による日常の筋力維持のための体操、薬剤師による常用している薬にも注意をというメッセージの講義がありました。今年は、腎臓病の重症度に合わせた腎臓病教室を計画しております。教室について、ご質問ご要望などありましたらお気軽にお問い合わせください。

腎臓病教室の様子

Team Kidneyの重要な取り組みとして、**地域連携の強化**があります。CKD患者さんの多くは、我々腎臓内科が直接診察しているのではなく、地域の先生方のところに通院しておられる方がほとんどです。すなわち、地域の先生方とより良い連携をとりながら慢性維持透析になるのを予防し、腎不全に至り透析施設に通院しなくてはならない時期になるまで地域の先生方のところで診ていただけるようなシステム作りをさせていただければと考え、現在、**地域連携パス作成の取り組み**を始めたところです。また、昨年11月には、地域連携の一環として、主に地域の先生方を対象として、慢性腎臓病の最も大きな原因疾患である糖尿病性腎症の治療選択という題で、日本人のGFR推定式作成に携われた今井圓裕先生にご講演を賜りました。

本年は、院内ではTeam Kidneyをさらに活性化して診療の質を充実させること、院外では地域連携を具体化していくことを大きな目標と考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

ナースの広場 Nurse Square

私たちは、真心を添えて看護します。

顔の見える連携を求めて

がん看護専門看護師
緩和ケア認定看護師
看護部 係長 森井淳子

当院には、2分野2名の専門看護師、9分野12名の認定看護師が活動しています。一昨年より地域に開かれた病院として、専門・認定看護師の持つ専門知識を広めるために研修会の企画・運営を行っています。第2回目となる今回は、『最期のときを支える介護のポイント』をテーマに、介護、福祉職の方々を対象とした研修会を開催し、近隣施設より37名の参加がありました。エンドオブライフ・ケアの考え方に関する講義の後にグループワークを取り入れ、日々行っているケアの意味や価値について考えて頂きました。「看取りについて改めて深く考えるきっかけとなった」「交流のよい機会だと感じた」「充実した内容であった」などの意見を頂きました。

日本は2007年に超高齢社会となり、今後は多死社会を迎えます。死亡者数が増加した時、現在の病院ベッド数では不足することが予測されており、自宅や施設などの住み慣れた場所で、看取りを行っていく必要があると言われています。

最新の専門知識を提供させて頂くだけでなく、地域の医療機関・施設との顔の見える関係の構築・連携推進も目指した研修会を開催していきたいと考えます。

連携医ネットワーク

地域の皆様により良い医療を…

「連携医」とは、日頃より患者さんを紹介していただくだけでなく、当院からの患者さんを受け入れて対応していただける医院・診療所の先生です。

片岡こどもクリニック

院長 片岡昭浩

日本小児科学会専門医、地域総合小児医療認定医、京大臨床研修指導医、小児二次救命処置プロバイダー

昨年6月"イオンモール京都桂川"のそばで小児科・アレルギー科を開院いたしました。阪急洛西口駅からも近く、医院横に駐車場も完備しています。専門は一般小児科、感染症、アレルギー、超音波検査ですが、25年以上にわたり京都桂病院などで多くのお子さんをみせていただいてきた経験を生かし、新生児から中学生まで、すべての子どもの病気を全般的に診ます。

朝8時45分から昼間少しお休みをいただいて、夜の8時まで診療しています。土曜日も午後診を含めて同じ時間帯で診療しております、日曜日の午前も診療しています。

待合室と診察室は感染症専用と一般に分けてあり、授乳室やプレイコーナー等も設けております。また、当院では10分ほどで採血、細菌・ウイルス感染などの診断が得られるようにしています。

京都桂病院をはじめとして、地域の基幹病院とも緊密な連携体制がとれておりますので、どんなことでも安心してご相談ください。

医院・診療所DATA

診療科目 小児科、アレルギー科

【所 在 地】向日市寺戸町七ノ坪136 洛西口クリニックビルII
【電　　話】075-925-0530
【休 診 日】祝日

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
8:45～12:00	●	●	●	●	●	●	▲
15:00～16:00	☆	☆	－	－	☆	☆	－
16:00～16:30	○	○	－	－	○	○	－
16:30～20:00	●	●	－	●	●	●	－

●：診　察　☆：予防接種
○：アレルギー・各種相談など非感染症（電話予約のみ）
▲：緊急・予約のみ（予約システムよりご連絡ください）

医師紹介

会長 松原義人
院長 野口雅滋

院長補佐（小児科部長兼務）
（地域医療福祉連携室室長兼務） 若園吉裕
副院長（泌尿器科部長兼務） 野々村光生
副院長（脳神経外科部長兼務） 新島京之
副院長（消化器センター所長兼務） 國立裕之

一般内科部長 酒井達也
腎臓内科部長 宮田仁美
〃 鈴木康紀
〃 医長 山地秀平
〃 副医長 迫田和典
血液内科部長（輸血部部長兼務） 森橋孝文
〃 部長 石口寿徳
〃 副部長 植田知代子
〃 副部長 濱田常義
化学療法部部長 土井章一
脳神経内科顧問 山本康俊
（脳血管センター長兼務） 山崎正三
〃 部長 冨田宏
〃 医長 戸井真太郎
〃 医師 服部康
内分泌・糖尿内科医長 山野武志
〃 医長 内藤言
膠原病・リウマチ科部長 三崎玲
〃 医長 山川範之
消化器センター 堅義

消化器内科部長 日下利
〃 副部長 畦地英
〃 副部長 藤井茂
〃 医長 池田全
〃 医長 中井敦彦
〃 副医長 楠本喜之
〃 副医長 田中聖典
〃 副医長 荒木泰敬
〃 医師 糸川秀行
〃 医師 田中芳男
〃 医師 平田智理
〃 医師 大岩朋子
〃 医師 中村央善
〃 医師 寺井大一
〃 医師 間瀬裕利
消化器センター外科部長 西躬中隆太

消化器センター外科医長 小濱晋
〃 副医長 西洲哉
〃 医師 神頭聡
〃 医師 光岡晋
〃 医師 金井英平
〃 医師 安俊貴
〃 医師 川口清亮
〃 医師 工藤泰代
〃 医師 西川泰二
呼吸器センター所長 寺田尚志
〃 呼吸器内科部長 西村敏之
〃 副医長 岩田知彰
〃 副医長 岩坪誉子
〃 医師 橋本教正
〃 医師 西石鉄兵
〃 医師 恒田隆広
〃 呼吸器外科部長 川村誉史
〃 副部長 吉井朋哉
〃 副部長 河野誉
〃 副部長 合地史明
〃 副部長 太田紗千子
心臓血管センター所長 中林茂智
〃 心臓血管内科部長 小津子
〃 副部長 船篤史
〃 副部長 溝渕正寛
〃 副部長 羽野嘉文
〃 医長 太田垣宗光
〃 医師 佐々木諭
〃 医師 田中真美
〃 医師 伊藤沙太雄
〃 心臓血管外科部長 森雅文
〃 副部長 吉井康欣
〃 副部長 三重野繁敏
心臓血管センター顧問 東修平
〃 医長 勝間田敬弘

整形外科部長 藤田隆裕
（人工関節研究センター所長兼務）
〃 副部長 西村朋美
〃 副医長 奥冨由子
〃 医長 原田啓理
〃 医長 冨永豪正
〃 医師 長尾智人
形成外科部長 小田祐大
〃 副医長 農野美央
産婦人科部長 藤井由一
〃 副部長 村上美子
〃 医師 小林剛

産婦人科医長 西村史朋
〃 副医長 山西恵
〃 医師 水津愛
〃 医師 前田万里紗
〃 顧問 橋井康二
泌尿器科副部長 河瀬紀夫
〃 副医長 森林泰宏
〃 医師 若林智生
〃 医師 中野翔平
眼科部長 松本淑江
〃 副部長 栗井雅史
〃 副医長 吉田祥子
〃 医師 松山千穂
耳鼻咽喉科部長 村井紀彦
〃 副部長 高橋由佳
〃 医長 大野恒久
脳神経外科副部長 服部佳世子
〃 医師 宮本淳一
乳腺科部長 松谷泰男
〃 副部長 上原正弘
小児科部長 澤田眞智子
〃 副部長 水嶋康浩
〃 副医長 吉岡耕平
皮膚科部長 松本あかね
〃 医師 石川牧子
児童・青年期精神科（京都桂看護専門学校長兼務） 入江ひかり
精神科部長 石坂好樹
〃 医長 岸田有史
〃 医師 幸信之
放射線科治療部部長 石村晶代
〃 医師 坂本知更
放射線科診断部部長 伊藤隆仁
〃 副医長 山岡利成
〃 副医長 濱田幸彩
放射線科副部長 徳永裕史
〃 医師 小山智弘
麻酔科部長 岩田良佳
〃 副医長 濵田優輔
救急科救急初療室長 寺坂勇亮
〃 医師 安原裕子
ペインクリニック科部長 戸崎博寛
病理診断科副部長 宮崎裕子
リハビリテーションセンター部長 越智次郎
健康管理センター所長 篠田浩之

研修医紹介

青木謙太郎
福谷優貴
市岡恵実
辻優一
吉村桃
永露倉田馨介毅
服部兼子
野々村大輝
万智卓
久保研一郎
柳田清水浩介
平野正二郎
成史

医療安全管理室

室長 有山真智子

地域医療福祉連携室

副部長 福田幸代

看護部門担当責任者

看護部長 林千鶴子
看護副部長 山河すづえ
教育担当 中村昌恵
A3病棟 谷口文代
A4病棟 久保ひとみ
A5病棟 清水真奈美
A6病棟 泉京子
B2手術室 稲田世津子
B3集中治療室 安東初美
C3病棟 岡田依子
C4病棟 中村喜美子
C5病棟 栗原佳子
D2病棟 河多江子
D4病棟 平野ひとみ
D5病棟 安田幸子
外来看護統括 山口淳代子
消化器内視鏡・超音波センター 瀬戸口晶子
透析センター 辻本保子

医療支援部門担当責任者

薬剤科科長 小林由佳
放射線科科長 森山吉修
検査科科長 豊場浩祥
臨床工学科科長 大久雄佳
〃 川岡田忠久
栄養科科長代行 手由香

事務部門責任者

事務部長 篠田浩之

2016年1月1日現在